

蒲生氏郷公入府430年記念 氏郷公ゆかりの地による

# 歴史講演 及び座談会

共通演題「氏郷公がもたらしたもの」

日時 令和2年

9月21日 月・祝

午後1時30分～午後3時45分  
(受付・開場12:30)



(興徳寺蔵)

会場 会津若松市文化センター 文化ホール

主催 会津まつり協会

## 第1部

13:30 開会あいさつ  
会津まつり協会会長 室井 照平 会津若松市長

13:40～14:50 **【歴史講演会】**  
①滋賀県日野町 講師／日野町教育委員会生涯学習課 歴史文化財担当 振角 卓哉 様  
②三重県松阪市 講師／蒲生氏郷公奉賛会 事務局長 小野寺 均 様  
③会津若松市 講師／福島県立博物館 専門学芸員 高橋 充 様

14:50～15:05 休憩及びホール内の換気

## 第2部

15:05～15:45 **【氏郷公ゆかりの地による座談会】**  
進行役／会津若松市文化課 近藤 真佐夫 様  
出席者／振角 卓哉 様(滋賀県日野町)  
小野寺 均 様(三重県松阪市)  
高橋 充 様(会津若松市)

15:45 閉会あいさつ(総評)  
蒲生氏郷公顕彰会会津会長 新城 猪之吉 様

# 講師及び座談会進行役プロフィール



講師(滋賀県日野町)

日野町教育委員会生涯学習課 歴史文化財担当  
 ふりかど たくや  
**振角 卓哉 様**

1969年広島県福山市生まれ。兵庫<sup>ゆめさきょう</sup>県夢前町教育委員会の囑託を経て現職。考古学を専門とし、滋賀県東部地域の中世城郭をはじめ、守護大名の京極氏や蒲生氏ほか、日野町ゆかりの戦国武将に関する研究を行う。また、幕府遊撃隊ゆかりの古流剣術である三重県無形文化財「<sup>かめやまはんおんりゅうぎ しんぎょうとうりゅうぶ</sup>亀山藩御流儀心形刀流武芸形」保存<sup>せきしんかい</sup>赤心会会員として保存・伝承活動に取り組む。

共著として『近江の山城を歩く』、『近江の山城ベスト50を歩く』、『図説中世城郭辞典Ⅱ・Ⅲ』、『近畿の城郭Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ』など。



講師(三重県松阪市)

蒲生氏郷公奉賛会 事務局長  
 おの であら ひとし  
**小野寺 均 様**

1948年三重県松阪市生まれ。有限会社三重電機商会代表取締役。蒲生氏郷公顕彰会ネットワーク事務局長も兼務し、また、一般社団法人松阪市観光協会副会長として同市の観光面においても幅広く活躍。

※蒲生氏郷公奉賛会…滋賀県日野町、三重県松阪市、会津若松市のそれぞれの蒲生氏郷公顕彰会で構成される「蒲生氏郷公顕彰会ネットワーク」が中心となり、氏郷公と縁の深い茶道<sup>さんぜんげ</sup>三千家家元の賛同を得て2016年10月24日に設立された。



講師(会津若松市)

福島県立博物館 専門学芸員  
 たかはし みつる  
**高橋 充 様**

1965年千葉県千葉市生まれ。1994年から福島県立博物館に学芸員として勤務、日本史の中世を専門とする。博物館での企画展では、明日が最終日となる夏の企画展『会津のSAMURAI文化 蒲生氏郷と藩士たちの文武』をはじめ、これまでに『戦国の城 一天守閣への道-』1998年、『武者たちが通る-行列絵図の世界-』2001年、『徳川将軍家と会津松平家』2006年、『会津磐梯山』2008年、『千少庵と蒲生氏郷』2010年などを担当。

編著・論文として「奥羽と関東のはざまにて-戦国期南奥の地域権力-」<sup>いる</sup>入間田 宣夫監修『講座 東北の歴史』第三巻(境界と自他の認識)、『東北の中世史5 東北近世の胎動』、『郡山陣中からの伊達政宗書状』『南奥中世史への挑戦』など。



座談会進行役(会津若松市)

会津若松市教育委員会 文化課  
 こんどう まさお  
**近藤 真佐夫 様**

1957年会津若松市生まれ。1992年に会津若松市役所に入庁し、若松城跡、神指城跡、御菜園、松平家墓所、城下の武家屋敷など数多くの発掘調査を担当。

現在は、歴史ある建築物の保存活動や、郷土の誇りが学べる施設『会津若松市歴史資料センター まなべこ』での歴史散策の講座を担当。また、2016年7月に放送されたNHKの人気番組『プラタモリ』では、城下町の痕跡を探し求めるタモリさんのガイド役を務める。

論文等として「若松城跡」・「神指城跡」「織豊系城郭とは何か」、「黒川城」・「神指城」「東北の名城を歩く 南東北編」、「会津藩の思想と儒教・神道の実践」「近世大名墓の考古学」、「近世の瓦」「考古学調査ハンドブック18 古瓦の考古学」など。

## ※蒲生氏郷の生涯(関連略年表)

元 号 (西 暦)	年 齢	関 連 の 事 柄
弘治 2年(1556)	1歳	近江国日野城主の蒲生賢秀の嫡男として生まれる。幼名は鶴千代。
永禄11年(1568)	13歳	織田信長の人質として岐阜に送られる。
永禄12年(1569)	14歳	この年元服し、見事に初陣を飾る。信長の娘冬姫を娶る。人質を解かれ日野に帰る。
天正10年(1582)	27歳	信長、京都本能寺で明智光秀の謀反を受け自害。氏郷は信長の家族を助け日野城にて籠城。
天正13年(1585)	30歳	飛騨守に任じられ、侍従に叙される。キリシタン信者となり洗礼してレオと称する。
天正15年(1587)	32歳	九州島津攻めから大阪に帰り、羽柴姓 <sup>ますひで</sup> を賜る。賦秀の名を氏郷に改名。
天正16年(1588)	33歳	松ヶ島から <sup>よいほのもり</sup> 四五百森に移り、新城を築き、地名を松坂と改める。
天正17年(1589)	34歳	磐梯山麓の摺上原で葦名義広と米沢の伊達政宗が戦い、政宗が勝つ。政宗、黒川に入る。
天正18年(1590)	35歳	政宗、小田原に参陣。政宗、黒川を去り米沢へ戻される。秀吉、黒川に着し奥羽仕置を行い、氏郷に会津を与える。
天正19年(1591)	36歳	九戸政実の乱鎮圧のため出陣。千利休の次男少庵を会津に引き取る。
文禄元年(1592)	37歳	朝鮮役で九州名護屋に出陣。城郭と城下町建設に着工し、黒川の地を若松と改める。 ・氏郷の代表歌「おもひきや人の行ぬぞ定めなき我ふる郷をよそにみんとは」
文禄 2年(1593)	38歳	七層の天守閣、若松城完成、鶴ヶ城と名付ける。名護屋より帰着。城下に六斎市を開く。播磨国より瓦師を招き、城東小田村で瓦を焼く。
文禄 4年(1595)	40歳	氏郷死去。子秀行が襲封。 ・氏郷の代表歌「限りあれば吹かねど花は散るものを心みじかき春の山風」(辞世の句)